2021. 4. 4　　日本基督教団 阿佐ヶ谷教会 図書委員会

☆☆図書室だより☆☆　☆第37号☆

☆☆– 図書委員会よりお知らせ –☆☆

復活祭のおよろこびと共に、おすすめしたい本と、併せて新しく入った本の紹介をさせていただきます。図書室にお越しになれなくてもお知らせがよいお届けになりますように。

《購入書》	書 名	著者名・出版社・発行年など		
信仰生活ガイド	教会をつくる	古屋治雄 編	日本キリスト教団出版局　2021/1/25	〔青 196.6 Fu〕
〃	主の祈り	林 牧人 編	日本キリスト教団出版局　2020/5/22	〔青 196.6 Ha〕
〃	使徒信条	古賀 博 編	日本キリスト教団出版局　2020/7/25	〔青 196.6 Ko〕
〃	十戒	吉岡光人 編	日本キリスト教団出版局　2020/6/25	〔青 196.6 Yo〕
〃	信じる生き方	増田 琴 編	日本キリスト教団出版局　2021/2/15	〔青 196.6 Ma〕

（ 裏面へ続く → ）

ご紹介

古屋治雄　主任牧師

『信仰生活ガイド　教会をつくる』　古屋治雄 編　日本キリスト教団出版局

阿佐ヶ谷教会では『信徒の友』の定期購読者がかなり大勢おられるかと思います。大宮溥先生も長く編集長として関わってこられ、古屋もこれまで少しお手伝いをしてきた教団出版局の56年に及ぶ定期刊行書です。

この度信仰生活ガイドとして全５巻のシリーズの中に『教会をつくる』とのテーマで一書がまとめられました。ここに集められた内容は、この度新たに書かれた内容もありますが、多くはこのテーマの下にこれまで寄稿されたものです。内容は、Ⅰ.教会の土台、Ⅱ.教会生活の喜びと希望、そして Ⅲ.教会を担うと三部構成になっています。

私たちの信仰生活は「私」という個人としての信仰の生活であると同時に教会生活、つまり「私たち」の教会共同体での生活となっています。この両者の関係が密接につながり、個人としてもまた教会としても生き生きとした信仰生活を目指していくことができるようにと願っています。是非阿佐ヶ谷教会の皆さんにも読んでいただき、充実した教会生活を送っていただきたいと重ねて願っています。

（ 神学生の鑑賞文より ）　〇 〇

『最初のイースター』　P.L.マイヤー 著　山田直美 訳　日本キリスト教団出版局

イースターの出来事は聖書の4つの共観福音書すべてが伝えているが、ある福音書にはない情報が伝えられていたり、ある福音書は異なる情報を伝えていたり、一貫した理解が難しい。その意味から、本書はすべての福音書の情報を、バランスをとりながら、イースターの出来事を順番にまとめ上げている。

またP.L.マイヤーは歴史学者であるので、聖書だけでなくヨセフスの『ユダヤ戦記』など幅広く歴史文書から情報を引用している。この史的な情報は聖書を読む上では周辺の情報であるが、聖書をより深く理解する助けとなる。

例えば、使徒信条に登場するポンテオ・ピラトについて、彼はイエスを助けようと判断を避け続けたが、ヘロデ・アンティパスなどのユダヤ指導者たちにイエスを十字架につけざるを得ないように入念に陥れられていったことが記されている。　（ T. K 神学生 ）

《ご寄贈書》	書 名	著者名・出版社・発行年など			
イースター	あたらしい いのち	加藤潤子 絵・文	日本キリスト教団出版局	2021/1/27	〔黒 492.93 Sa〕
新版・教会暦による説教集	イースターへの旅路 レントからイースターへ	荒瀬牧彦 編	キリスト新聞社	2021/1/25	〔黒 492.91 Sa〕
信仰生活ガイド	教会をつくる	古屋治雄 編	日本キリスト教団出版局	2021/1/25	〔青 196.6 Fu〕

《購入書》	書 名	著者名・出版社・発行年など			
主の祈り	講解説教	ヴァルター・リュティ 著 野崎卓道 訳	新教出版社	2013/7/1	〔茶 196.1 Lü〕
十戒	教会のための講解説教	ヴァルター・リュティ 著 野崎卓道 訳	新教出版社	2017/4/1	〔橙 193.21 Lü〕
祝福される人々	山上の説教抄講解	ヴァルター・リュティ 著 野崎卓道 訳	新教出版社	2009/12/4	〔橙 193.61 Lü〕
詩篇研究		左近 淑 著	新教出版社	1997/11/5	〔橙 193.33 Sa〕
今日のパン、明日の糧	暮しにいのちを吹きこむ366のことば	ヘンリ・ナウエン 著 河田政雄 訳	日本キリスト教団出版局	2020/5/20	〔茶 198.24 No〕
看取りのプロに学ぶ 幸せな逝き方		佐藤 陽 畑川 剛毅 著	朝日新聞出版	2020/9/30	〔黒 492.91 Sa〕
赤ちゃんを我が子として育てる方を求む		石井光太 著	小学館	2020/4/21	〔黒 913.6 I〕

『イースターへの旅路 レントからイースターへ』

荒瀬牧彦 編　吉岡恵生 他 著

キリスト新聞社

コロナ禍の教会が何を語ったか？を記録した説教集です。「教会暦による説教集」シリーズの新版になります。

世界中の教会が通常の礼拝を中止せざるを得なかった昨年、日本の牧師たちの渾身のことばが綴られています。

例えば神戸東部教会の古澤啓太牧師は、2020年5月の礼拝で、ヨハネによる福音書16章25～33節、キリストの勝利について取り上げました。祈りと聖霊の本質を問いかけ、また入院する知人へのお見舞いを例えにあげます。面会時間が過ぎて帰ることについて、患者と面会者は互いが裏切られた、見捨てられたと感じる様を聖句に照らし、病の悩みや苦しみ、裏切ることや裏切られること、逃げ去る者、逃げ去られる者の寂しさ、苦しさを主は全てご存知だと解き明かします。

本書は緊急出版であり、今年のレントからイースターに間に合うよう出版されました。新型コロナウイルスの病禍にあって、今まさに読まれるべき一冊かと思います。(m.i.)

『信仰生活ガイド 主の祈り』

林 牧人 編　日本キリスト教団出版局

『主の祈り 講解説教』

ヴァルター・リュティ 著　野崎卓道 訳　新教出版社

イエス様が私たちに‘主の祈り’を教えてくださいました。罪深い私たちが天の父に祈ることができるよう、イエス様ご自身が、十字架で私たちの罪を背負い、復活によってそれに打ち勝ち、そして「こう祈りなさい」と一つ一つ語りかけるように教えてくださっているということが、祈りの内容と共に大事に受け止められます。

コロナ禍で昨年イースター前（３月25日）に、教皇フランシスコは‘主の祈り’を共に唱えるよう、すべてのキリスト者を一致した祈りに招かれました。

他国や地方に行った時も寂しい時もこの‘主の祈り’だけはありました。いつも身近にありつつ、こんな大きなことを、この二つの本によりあらためて気づき、祈れることの幸いを、イースターのお恵を思いました。(Ri)